

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	コロナの影響もあり、施設生活が中心となっ てきている。ご利用者様と関わりながら共に 行うようにしている。	理念は事務所に掲示されており、年に1回事 業所の内部研修を行い、理解が深まるよう努 めている。また管理者が中心になり、職員の 理解が更に深まるようケアの実践を通じて指 導がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一人として日常的に交 流している。	コロナの影響もあり、地域とのつながりにつ いては不足を感じている。	開所間もなくからコロナが流行したことで、地 域とは満足な関わりが持てずにいるが、それ でも運営推進会議等を通して、防災に関する こと等、町会長をはじめ地域との交流が徐々 に活発になってきていることが確認できた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている。	認知症の理解や支援を地域に伝える機会 があれば、行っていきたくと考えている。「し まうちの家」はどんな施設かを知っていただ けるようにしていきたいと考えています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、その意見をサービス向上に活かして いる。	コロナの影響もあり、事業所で開催できた回 数が少なかったが参加をしてくださった方に 助言をいただくなどし地域の状況を知ること ができた。	コロナの感染警戒レベルに応じて、参加者を 絞りR3.12からは2回開催できた。現在BCP計 画の作成に絡めて地域との連携を模索して おり、地域から、福祉避難所としての役割を 期待されていることから検討に入るなど、運 営推進会議を活かした取り組みがされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	積極的とは言えないが、地域包括センター には必要に応じて連絡をとるようにしてい る。地域包括センターの方から助言などもい ただいている。	コロナ禍の為、運営推進会議が満足に開催 できないなど、直接顔を合わせる回数は減っ ているが、困難ケースの相談など、必要に応 じて、地域包括支援センターと電話等でやり 取りを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁 止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに 取り組んでいる。	事業所内研修などで身体拘束について研 修などを行っている。日頃の何気ない行動 も身体拘束に当たることもあるので注意をし ている。	開所以来、身体拘束は行われていない。法 人の全体研修や事業所内研修など重点的に 研修にも取り組まれている。現在、管理者を 中心に、特にスピーチロックに注意しており、 職員の安易な言葉掛けが拘束に繋がらない よう、日常業務で気になる言葉掛けをビク アップし注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている。	事業所内研修などで虐待防止について研 修などを行っている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内研修でも取り上げられたので今後は事業所内研修で知っていただくように努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時にもご説明を行うが、事前面接時にも事業所ですることについて事前に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	請求書の郵送時に簡単なお手紙と一緒に入れている。ご家族様が来所時や電話にて必要に応じたご報告はしている。	ご家族に対しては、来所時や電話、メール等で意見等の把握を行っている。最近では、コロナ禍における面会について、家族の意見を反映させて改善を行った。毎月、請求書と一緒に利用者の写真を数枚載せた手紙を送り、コロナ禍における施設での生活の様子をお伝えし、信頼関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議や全体会議で意見を聞いたり、調整を行っている。必要に応じて個別でも相談に乗るようにしている。	管理者は、トップダウンにならないように注意しており、各会議等で職員から出された意見については、出来る方向で調整をするよう心掛けている。またそのようにすることで意見が表出しやすい職場の雰囲気作りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課表を参考にして個人面談を年2回又は3回を行い、代表者に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得に関しても職員に対しての支援をしている。個人で外部研修などに参加されている場合は参加できるように協力をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍で同業者との交流は少ないが、施設見学など希望があった際には積極的に受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者様と関わりを持つだけでなく、日常会話を気兼ねなくできるように話しかけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の来所時に相談に乗ることもあるが、県外のご家族様についてはメールや電話などでやり取りを行うこともある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様などに昔はどのような生活を送っていたか聞き取り、ご利用者様ができそうな事を提案をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	施設経験者の職員もおり、一方通行になりやすいので、ご利用者様と一緒に行動するように指導をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍であるが、必要に応じてご家族様と短時間の面会を行うこともある。ご利用者様が生活をしていく中で必要に応じてご家族様にも手伝っていただくこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナの影響もあり、現在は行えていないことが多いと思います。	コロナの影響もあり、難しい状況ではあるが、レベルに応じて面会は可能であり、コロナ禍以降、感染対策が十分に取られた面会室が整備されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	行事などで全体交流を図ったり、行事準備なども手伝っていただくようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	現在は行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の生活から、ご利用者様との会話から希望や意向などを把握している。会話の困難なご利用者様については身体状態や些細な行動から把握するように努力をしている	管理者を中心とし、全職員が更に利用者の想いや意向を汲み取れるようになるために、今年から全職員が介護計画を基に、個別計画を作成するようになっている。実際に個別計画と記録を確認したが、細かい情報収集が成され、また共有しやすいようにまとめられていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	馴染みのある物など自宅から持ってきていただくようにし、その人らしいお部屋になるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	気づいたことがあれば、毎日の申し送りや記録に残すなどして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランだけでなく今年度は全職員が個別介護計画の実施が出来るように取り組んでいきたいと考えている。	本人・家族の意見や要望に加え、必要に応じ医師や訪問看護師が連携し、意見やアドバイスをもらうことが出来ている。介護計画は、管理者がリーダーシップを取り作成しており、特に今年からは、介護計画から更に落とし込んだ個別計画を職員全員が作成することで、よりきめ細かな支援を実現させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	状態変化や気づいたことがあれば、記録に残すようにしている。ADLの変化があった際には出来る限り細かく記録を残し、その後の支援方法に反映をするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ禍ということもあり、出来る範囲での対応はしているが、柔軟な支援が行えていないと感じる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の把握に努めているが、協働までは行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院の往診だけでなく、必要に応じて電話相談をしている。	かかりつけ医は、本人及び家族の意向が尊重され、自由に選ぶことが出来る。かかりつけ医が協力医療機関の場合は往診がある。通院の場合、出来るだけ家族の支援をお願いしているが、付き添えない場合は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一回の訪問看護の時だけでなく、電話やメールなどで相談や報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院の判断にもよるが、グループホームでの生活が維持出来るようなら早期退院でも受け入れるように事業所内での調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様、ご家族様の意向に沿いながらできる限りの支援をしていきたいと考えている。しかしながら医療行為が常時必要になった際にはグループホームでの支援の継続が困難になることもあるので事前に説明はしている。	令和元年の開所以来、看取りの経験はないが、看取りに関する指針があり、看取りの体制を整えている。重度化した場合、本人・家族等と話し合いを行い方針を共有、可能な限り施設で支援を行っている。職員は年1回看取りに関する内部研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所内研修の実施と判断に困った際には上司に報告をし対応の相談などを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	運営推進会議などで災害時の地域との協力体制を確認し、現状では施設敷地内待機と考えている。避難所で介護が必要な人がいた際には数人でも受け入れを検討すると町会長に伝えている。	コロナ禍により地域住民の参加は難しいが、年3回の防災訓練が実施されている。現在BCP計画の作成を通じて、災害時の地域との連携体制の構築が進んでいる。専門性を活かして更に地域に貢献するため、福祉避難所としての登録も検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用様が不快になるような言葉かけには注意を払っている。状況によっては全体会議などで注意をするように伝えている。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について、管理者がリーダーシップを取り、取り組まれている。年間で、人格の尊重やプライバシー保護に資する研修や講話が実施されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の意向にならないようにしているが、場合によっては管理者がご利用様の意思決定なのか確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合にならないようにしているが、出来る職員と出来ない職員がいるので統一した支援が出来ないこともある。今後も努力をしていきたいと思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出する際には身だしなみに気をつかうが日常生活では出来ていないこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や後片付けなど出来るご利用者様には職員と一緒にしている。	利用者は、食器の準備や後片付け等それぞれできることを職員と行っている。調理に関しては、効率化と栄養面を考慮し、R3.8より法人全体でセントラルキッチンが採用され、調理されたものが各施設に届き、温めて盛り付けされる。日曜の昼食のみ事業所で調理されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	現在は管理栄養士が考えたクックチルという方式で温め直して食事の提供をしている。ご利用者様に依って食事形態の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自身でできる方は声掛けを行い、介助が必要な方は支援をしている。必要な口腔ケア用品は職員が管理し購入している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ADLにあわせて排泄用品を使用している。排便については、オムツ使用しているご利用者様でも必要に応じてトイレに座っていたく支援をしている。	排泄チェック表に記載した記録を基に、出来るだけトイレでの排泄が可能となるように、トイレへの誘導等を行っている。また一連の排泄支援について、管理者が中心となり職員を指導し、取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物の工夫の他に腹部マッサージやトイレに座っていただくなどをして排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	基本的には曜日や時間帯は決まっているが、入浴を好まないご利用者様についてはその人のタイミングで入浴をしていただくようにしている。	入浴する曜日や時間帯は基本的には決まっているが、心身の状態等により変更もされており臨機応変に対応している。ADLの状況にもよるが1週間に3回入浴している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	リビングに座りながら寝てしまうご利用者様もいるので、その際にはベッドで休んでいただくように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師やかかりつけの医師と相談をしながら服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常生活で役割が持てるような支援はしているが、嗜好品や気分転換などは積極的に行えていないので今後の課題と考えている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍ということもあり、お花見、紅葉ドライブなどの行事は実施している。必要に応じた他科受診などは職員又はご家族様で行っている。	コロナ禍により、以前と比較して外出する機会が減少しており、お花見や紅葉ドライブなどの行事が主体になっている。	今後はコロナの感染警戒レベルに応じて外出支援に力を入れていく予定とのこと。近所のパン屋等を含めて日常的な外出支援の具体化に期待致します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持金は事業所管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個人携帯を持っているご利用者様もいる。希望があれば事業所の電話をお貸しすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関先などに季節に応じたものを設置し季節感を味わっていただくように工夫をしている。家庭菜園も季節に応じて野菜作りなどを行っている。	施設内は木材がふんだんに使われており、テーブル等も木の色調に合わせているので、高級感がありながらも大変落ち着いた雰囲気になっている。またその雰囲気を損ねないように、あえて過度な飾り付けはしないように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合うご利用者様同士が話しやすい席の配置や希望に沿った席の配置を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使い慣れた寝具などを持って来ていただくなどしている。ご利用者様のADLに合わせて福祉用具をお借りすることもあるがその際にはご家族様と相談をして使用していくようにしている。	感染症対応の為、一部屋だけの確認であったが、居室には、自宅で使っていた家具、思い出の品が持ち込まれており、連れ合いの遺影も飾られていた。本人が居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	少しでも出来ることがあれば、多少の時間が掛かることや少しだけしかできなくとも、まずは行えることはやっていただくようにしている。その後出来ないところを手伝うようにしている。		